

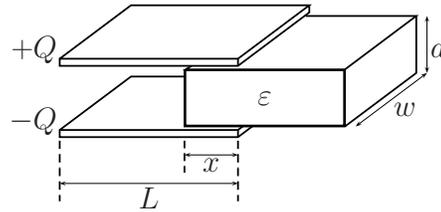
電磁気学 II(共通教育、田中担当クラス) 試験問題

1. ベクトル場 $\mathbf{A}(\mathbf{r})$, $\mathbf{B}(\mathbf{r})$ について, 次の式を示せ.

(a) $\nabla \cdot (\mathbf{A} \times \mathbf{B}) = \mathbf{B} \cdot \nabla \times \mathbf{A} - \mathbf{A} \cdot \nabla \times \mathbf{B}$

(b) $\nabla \times (\nabla \times \mathbf{A}) = \nabla(\nabla \cdot \mathbf{A}) - \Delta \mathbf{A}$

2. 長さ L , 幅 w , 極板間の距離 d の平行板コンデンサーを考える. 各極板の電荷は $\pm Q$ に固定されている. このコンデンサーに長さ方向から誘電率 ϵ , 幅 w , 厚さ d で十分に長い誘電体を挿入する. 今, 右図のように, 長さ x ($0 < x < L$) だけ誘電体がコンデンサー中に入っていると



(a) このときのコンデンサーの容量を求めよ.

(b) このときにコンデンサーに蓄えられているエネルギーを求めよ.

(c) 誘電体に働く力の向きと大きさを求めよ.

3. 磁化した無限に長い半径 a の円柱を考える. 以下では, 円柱の軸を z 軸とする円柱座標 (R, φ, z) を用いる. 磁化ベクトルは, $\mathbf{M} = (M_0 R/a)\hat{z}$ で与えられるものとする. ただし, M_0 は定数で, \hat{z} は z 軸方向の単位ベクトルである. 必要であれば, 円柱座標でのベクトル場の回転が,

$$\nabla \times \mathbf{A} = \hat{\mathbf{R}} \left(\frac{1}{R} \frac{\partial A_z}{\partial \varphi} - \frac{\partial A_\varphi}{\partial z} \right) + \hat{\boldsymbol{\varphi}} \left(\frac{\partial A_R}{\partial z} - \frac{\partial A_z}{\partial R} \right) + \hat{\mathbf{z}} \frac{1}{R} \left[\frac{\partial}{\partial R} (R A_\varphi) - \frac{\partial A_R}{\partial \varphi} \right]$$

で表わされることを用いてもよい.

(a) 円柱の表面 ($R = a$) での表面磁化電流密度 σ_m を求めよ.

(b) 円柱の内部 ($R < a$) での体積磁化電流密度 i_m を求めよ.

(c) 磁化 \mathbf{M} による単位長さ (z 軸方向) 当りの磁気双極子モーメントベクトル m_0 を求めよ.

(d) 単位長さ (z 軸方向) 当りの σ_m の作る磁気双極子モーメントベクトル m_1 を求めよ.

(e) 単位長さ (z 軸方向) 当りの i_m の作る磁気双極子モーメントベクトル m_2 を求めよ.

(f) m_0 , m_1 , m_2 の間に成り立つ簡単な関係式を見出せ.